南阿蘇村立南阿蘇中学校　学校だより

ハーモニー

Since2016

校訓
南 Mission 使命
阿 Action 行動
蘇 Sense 感性

R3. 11. 26(金) No.30 小柳　弘志

人権教育授業研究会

１１月２４日(水)にありました。１年３組と２年１組の授業を白水小、久木野小、南西小の先生や地域の学校関係者に見ていただきました。１年生は「身の回りの差別やおかしさを見抜き、仲間と協力して解決しよう」という内容です。２年生は「水平社宣言に学ぶ」という題材で、「自分と他人の個性を認め、支え合う仲間の大切さに気づき、差別を許さない仲間になろう」という内容です。私は１年生の授業を参観しましたが、**今までの講師の話や学習した内容から、各自がしっかり考えていました。仲間になるためには「言葉のキャッチボール」「心のキャッチボール」「笑顔」が大切と、多くの生徒が考えていました。**

（１年３組人権学習の様子）

（２年１組人権学習の様子）

（授業研究会の様子）

しっかり考えてはいるんですが、中学校時代は人に自分の気持ちを伝えたり、言ったりすることが苦手な時期とも言われています。なおさら、自分の思いを伝え合って「笑顔」のクラス、「いじめ・差別を許さない」クラスをつくっていくことが大切なんだと気づかされました。**小牧先生が授業の途中で話されていた「みなさんが、先生の話を聞いてくれて、覚えていて、反応してくれたことが、本当に嬉しかった。元気をもらいました。」という言葉が印象に残っています。**

ところでこの日「中３男子生徒死亡　逮捕の生徒　包丁を事前に購入し持ち込みか」というニュースが入ってきました。

愛知県弥富市の中学校で３年生の男子生徒が同学年の男子生徒に包丁で刺され死亡した事件です。ＮＨＫニュースでは同学年の保護者の話として「知人からの連絡で知り心配で見に来ました。娘から学校の話も聞きますが、いじめなどは聞きませんしとてもいい学年です。礼儀正しい子たちですれ違うだけであいさつしてくれる学校なので、よけいにびっくりです。中学３年で大事な時期だし、心の問題をケアしてもらえればと思います。」と掲載されていました。

学校は生きる力を育む場所です。事件の背景については今後、明らかになってくると思いますが、**なおさら人権学習の大切さ、仲間づくりの大切さを痛感しました。おとな、こどもに関係なく「言葉のキャッチボール」、「心のキャッチボール」、「笑顔」を大切にしていきたいと考えさせられた１日でした。**

3年、次は入試。1.2年は県学力テスト

先週、今週で全学年、期末テストがありました。**結果返却時は一喜一憂します。しかし、厳しい現実だった場合も物や人にあたることなく、原因を分析して次のチャレンジ向け、努力を続けてください。**３年生は現在、三者面談の最中です。いよいよ希望校の入試があります。１．２年生は来週、１２月２日に県学力調査があります。

今回は、みなさんに**大谷翔平選手の言葉**を紹介します。

- **目標を立てればいいのではなく、いかに目標に向かって真剣に取り組めるかも大切です。**
- **自分の才能、自分のやってきたこと、自分のポテンシャルをもっと信じたほうがいい。**
- **誰よりもしっかりと野球に向き合い練習に取り組んできたという自信がある。**

「言葉のキャッチボール」「心のキャッチボール」が大切なことが伝わってくる作文を読みました。みなさんにも紹介します。

「双子でもわからないこと」 熊本県人権作文特別賞(熊本日日新聞社賞)より

中学１年生の秋、双子の妹が突然学校に行かなくなった。「またか。」と思った。妹は小学校の頃から、時々学校に行けなくなることがあったからだ。いつも１日か長くても３日くらいすると何事もなかったようにまた登校する。きっとまたそれと同じだと思った。しかし、今回は１週間たっても１ケ月たっても学校に登校できるようにはならなかった。

双子なので、妹の友達は僕に「いつになったら来られるの？」と聞いてくる。その度に僕は「体調が悪いんだって」と嘘をついていた。けれど、毎日聞かれるのは、嫌だった。妹は友達が遊びにきたり、土日は普通に遊びに出かけたりもしていた。学校に行かないくせにと思っていた。「明日は行く」「月曜から行く」「後期になったら行く」何回もそんな言葉を聞いたけど、妹は学校になかなか行かなかった。少しだけ学校に行った日も途中で気分が悪くなって早退していた。それでも、母は妹を怒るわけでもなく、いつも通りにご飯を作っていた。僕は「何も言わないでやって」と言われた。僕は、とてもイライラした。妹は、僕が帰ってくる頃にはいつも元気そうにしている。どうして学校に行かない妹が怒られないのか、意味が分からなかった。妹はちょっとでも学校に行った日、「よく頑張ったね」と褒められる。毎日通っている僕は何も言われないし、ゴロゴロしていれば怒られる。

ある日、妹に「行きたくないなら行かなきゃいいじゃん」と言われた。そんなことを言われて、僕は我慢ができなくなって、「僕は学校で体調が悪いとか言ってかばってあげているのに、あいつばっかりずるい！あいつだけ学校に行かないのは許さない。」と怒った。そしたら、母が「明日は休んでいいよ」と言ったので元気だったけど、次の日は学校を休んでみた。このまま自分も学校をずっとさぼってしまおうとちょっとだけ思っていた。その日、僕は好きなだけ寝て、ゲームをして、ゴロゴロして過ごした。だけど、その日の夜「明日は学校に行こう」と思った。１日楽しい気分にはならなかったからだ。学校をさぼっているという罪悪感をずっと感じていたし、ゴロゴロ過ごすより学校に行って友達と話したり、部活をするほうがよっぽど楽しいと思ったからだ。

妹は学校に行かないで１人でいて楽しいのかな？と思った。登校できない自分が嫌になったり、１人では勉強をやる気にならないと思う。僕の目には苦しんでいるように見えない妹も、きっと罪悪感を感じて苦しんでいるからこそ、毎日お腹や頭が痛くなり行けないのだろうと理解することができた。

その頃から、妹は母の勧めで、毎日家でパンを焼くようになった。手ごねで作るパンは４時間くらいかかるらしい。１日に２回焼くこともあった。妹のメロンパンはとてもおいしくて、僕も楽しみにするようになった。「このまま学校に行けなくても、将来はパン屋さんになったらいいね。」といろんな人が言っているのを聞いて、不登校でも進む道はあるんだと知った。妹が焼くパンをたくさんの人が美味しいと言ってくれて、妹の表情が明るくなっているような気がした。

妹は少しずつ学校に行ける日が増えていった。先生や友達の助けがあって教室にいられる時間が増えたらしい。妹の周りには友達がいてくれたけど、何かがあったら僕も助けるつもりだったけれど、特にその必要はなかった。学年が変わり、妹は毎日普通に通うようになった。妹は「修学旅行に行きたいから。」と言った。中学３年生になった今、たまに積極的に休むと言って休むことはあるけれど、妹は元気に学校に通っている。僕は思う。あの時両親や先生が妹を毎日、無理やり学校に引きずって連れて行ったり、怒ったりしていたらどうだったろうか。友達が「ずる休みだ」と言って冷たくなって離れていったらどうだっただろうか。

今でも、どうして学校に行けなくなったのかは分からない、と妹は言うけれど、学校にまた行けるようになった理由は、学校に行けなくなった妹を周りの人が理解して、受け入れたからだと僕は思う。ずる休みした日僕は少しだけ妹のことを理解することができた気がする。

不登校の不登校のことだけでなく、どんなことでもお互いのことを理解するということはとても大事なことだと思う。同じお腹にいた双子のことですら、さっぱりわからないのに、他の人のことが簡単に理解できるはずがない。理解し合うために、相手がどんな人なのか、相手の立場に立って知ることを努力し、自分との違いを受け入れることを大事にしていきたい。